



10年後に食える仕事 食えない仕事

渡邊 正裕 著

ISBN : 978-4-492-26103-3

東洋経済新報社刊

四六判・222頁

定価 1,575円 (税込)

2012年2月刊

国内SEが日本人である必要はあるのだろうか？

グローバル化が進んでいることを実感する機会が増えている。コンビニや飲食店の店員は日本人でない場合が多く見受けられる。また、コールセンターの海外アウトソーシングが進んでいる。

本書では職業のポジションを4象限で整理し、10年後にどうなるかを解説している。求められるスキルが知識集約か技能集約か、日本人であることのメリットが大きいか小さいかの軸を使っている。

技能集約で日本人メリットが小さい職業は『重力の世界』と称し、グローバル化によって労働機会が減り賃金相場が限界まで下がる。例えば店舗店員、コールセンタースタッフ、組立て作業員などである。そしてプログラマーもここにマッピングされている。

一方、SEは知識集約型で日本人メリットが大きい『グローバル』と称

する領域であり、他にはマーケッターや記者/編集者などが該当する。日本市場向け高度専門職として、高度な日本語や日本の人脈などが求められる。

しかし、SEも10年後に食える仕事とは言い切れない。日本人メリットが本当に機能するだけのレベルにあるかが重要である。お客様自身が高いITスキルを保有していれば、直接海外のSEや企業と取引するほうが効率的である。お客様のグローバル化とITスキル向上は、より高度なスキルを持つSEしか生き残れない環境を作る。

ぜひ、自分の10年後を考えると、この書籍を参考にして欲しい。自分の職業が10年後どうなるか、自分のスキルが10年後に役立つのかを客観的に考えたい。そして自分に必要となるスキル強化を中長期的に取り組むことを始めてほしい。(渡辺 登)



ソフトウェア最前線

前川 徹 著

ISBN : 4-7572-1064-7

アスペクト刊

四六判・262頁

定価 1,890円 (税込)

2004年9月刊

SEC 設立時のホットなトピックス再考

SEC 設立直前に発行された本書のサブテーマは、「日本の情報サービス産業界に革新をもたらす7つの真実」であり、その7つについて言及している。

真実1：世界はソフトウェアに依存している

真実2：このままでは日本のソフトウェアはダメになる

真実3：ソフトウェア工学で問題がすべて解決するわけでない

真実4：ウォーターフォール・モデルはソフトウェア開発に適していない
真実5：優秀な人が優秀なソフトウェアをつくる

真実6：ソフトウェアの天才は身近なところにいる

真実7：ソフトウェア産業を育てるのはユーザである

真実1及び2は、出版当時以上にホットなテーマで、ソフトウェアの不

具合が及ぼす影響は一層大きくなっている。真実3に関連し、CMMの記述に当該章の三分の一以上を割いているのは適切であろうか？改善活動に関する熱気も以前ほどでは無いようである。真実4は、依然問題になっている。ウォーターフォール・モデルが本来意図したイテラティブな開発スタイルの適用が困難な状況である。真実5はむしろ状況が悪化し、優秀あるいは専門教育を受けた人材が、業界内では減少しているようである。真実6は、開発対象の殆どが業務アプリケーションの日本では、業務要件が受発注者間で正しく伝わる体制、環境をもっと整えるべきと考える。最後の真実7は、日本のソフトウェア開発における最重要課題である。ユーザが責任をもって仕様書を作成し、それを受発注者間で共有し開発を進めることが議論されるべきと考える。(新谷 勝利)